

源氏物語

紫式部

平安時代中期、紫式部によって書かれた日本最古といわれる長編小説。夫(藤原宣孝)が亡くなった悲しみを紛らすために書いた物が貴族の間で評判となりいつしか藤原道長の耳にも入るようになり、それをきっかけに帝の女御となる女性(道長の娘)の教育係として宮中へ上がることになります。

源氏物語とは

全編は54帖(じょう)(54巻)からなる壮大な物語。約70年のお話は3部構成になっています。第1部は1帖から33帖まで。主役の光源氏の誕生～多くの恋を経験し成長していくなかで、宮廷内で栄華を極めていくお話。第2部は34帖から41帖。多くの苦難が待ち受けている後半生から光源氏の死まで。第3部は42帖から54帖。光源氏の子や孫の物語で完結。第2部以降は宮中に参内した後に執筆しています。

大まかなあらすじ

桐壺帝と桐壺更衣の子として生まれた光源氏。帝の寵愛を受けるも正室やほかの女御の恨みを買って心労がもたらす桐壺更衣は亡くなります。正室には帝の第一子がいることから、権力争いに巻き込まれないよう帝は溺愛する息子、光源氏を臣籍降下し皇族の身分から臣下とし源氏の姓を与えます。幼くして母を亡くし、父は帝という境遇で淋しい思いをして成長。その美貌も相まって女性も放っておかず数々の恋愛を経験。そのひとつひとつが描かれた光源氏の栄枯盛衰の一生と壮大な恋愛物語絵巻となっています。

魅力

1000年以上前の作品ではありますが、人の心の機微や苦悩、恋愛感情や憎悪など現代と何ら変わりなく高貴な人々であってもとて人間臭い部分と雅な風習など引き込まれるものが沢山。また、全体を通して仏教的な価値観が反映されているため、自分が過去におかした過ちは巡り巡って自分に返ってくるという因果応報というテーマも盛り込まれています。

宇治市源氏物語ミュージアム

源氏物語の最後45帖～54帖の舞台が宇治であったため、その10帖は別名宇治十帖とも呼ばれています。それにちなみ京都府宇治市に源氏物語ミュージアムが作られています。常設展示室には狩衣姿の薫君と小袿姿の大君(おおいきみ)と中の君の人形が展示されています。その他、牛車・舞楽・調度などの品々が、細部に至るまで細かく時代考証によって造り上げられており、平安貴族の世界を十二分に堪能させてくれます。

・京都府宇治市宇治東内45-26 電話：0774-39-9300

平安レシピ～「蘇(そ)」をつくってみよう！

古代～平安時代の貴族の間で食べられていた高級乳加工品。疾病の治癒や体力回復に欠かせない薬餌としても利用され、藤原道長が大病を患った時には、蘇にはちみつをかけて食べたと言われていました。

材料：1人分 成分無調整牛乳 500cc

- 作り方：①26cmのフライパンに牛乳500ccを注ぎ、中火にかける。沸騰してきたら吹きこぼれない程度に火を弱める。弱火にしすぎると水分が蒸発しないので注意。
②20分くらい経つと牛乳が凝固しはじめるので、ゴムベラでかき混ぜる。鍋のフチに凝固した牛乳がこびりつきやすいので注意。
③ゴムベラでなぞった時に鍋底が見えるほど煮詰まってきたら練るように混ぜ、さらに水分を飛ばす。
④45分くらい加熱を続けると、ゴムベラでなぞったときに鍋底が見えるくらいまで凝固してくる。さらに鍋底にくっついた牛乳を剥がすように混ぜ、団子状にまとまるくらいまで煮詰め、火を止める。ラップなどで丸めて冷蔵庫で一晩冷やす。出来上がりの目安重量は70～80グラム。計量すると失敗がない。

今年NHK大河ドラマで紫式部が主人公ということもあり「源氏物語」ブームが来そうですね。日本最古の物語としてタイトルは誰でも知っている大長編物語を読んだという方は意外と少ないかもしれません。今年はこのブームに乗っかってマンガでも簡単本でもよいので源氏物語に挑戦してみようはどうでしょう？1年かけて！！(実は私もあさきゆめみし派です)



読んでみよう！源氏物語

現代語訳本が多数出ていますし、抜粋された簡略版もあります。また、取り掛かりとしてマンガから入るのもいいかもしれません。マンガも少女マンガから学習マンガと多数あり。また、今年は注目されているので攻略本的な解説書も数多く出ています。まずは書店へ足を運んで手に取って見比べるのもいいでしょう。現代語訳版も、訳した作家の色やフィクションが入っていることもありますので、読み比べも楽しいかもしれませんよ。平安時代の文化風俗のわかるムック本と合わせて読むとよりわかり易いかもです。

(書店では源氏物語や紫式部コーナーが作られていることもあります！楽しみ！！)

平安貴族のたしなみ

手習い	文(手紙)や和歌のやりとりなど、美しい字を書くことは基本。その文面だけでその人が綺麗かどうかの判断をしていたようです。
音楽の才	楽器の才は必須。男性は笛、女性は琴が上手に弾ける吹けるのが重要でした。
和歌の知識	和歌を即興で詠めるのはもちろん、昔の和歌に精通していることで自分の教養の高さを示すことができました。

美しい書、楽器演奏、和歌。3つの平安貴族のたしなみは、現代の皇族方もたしなみとして受け継がれています。貴族間の権力闘争などドロドロした部分と高い教養の雅な文化。平安時代は興味深い時代ですね。

藤原道長

大河ドラマでは幼少のころから紫式部との交流が描かれています。二人が出会ったのは源氏物語執筆中、その文学的教養の高さが目に留まり、帝に入内する娘の教育係として迎えたことから始まります。しかし二人の恋愛感情のやりとりを交わした和歌が数多く残っていることから紫式部と藤原道長の仲は本当だったようです。源氏物語もそうですが、二人のやりとりも直接的な名言や表現はなく美しい言い回しや例えを引用してあるところが文学的です。(二人の和歌は紫式部日記で読めます)



この世をば
我が世とぞ思ふ
望月の
欠けたることも
盡しと思へば
藤原道長

この世で自分の思うようにならないものはない。満月に欠けるものがないようにすべてが満足にそろうている

